

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 11 日（水）18：33～19：58

場 所：湯地公民館

出席者：4 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：費用面などうまく考えられたと思いながら聞いていた。今の場所に建て替えるとなると、建設中の間はどこで医療を受け、医師はどこに行くのか。

町長：栗山赤十字病院の敷地は 15000 m²あり、ちょうど中間に建っている。南側の土地に新しい病院を建てて完成後に今の病院を解体する計画なので、病院を休むことなく建て替えを行うことができる。

町長：建て替え場所については、いろいろな意見が出ている。現地建て替えというのが一番多いが、栗山駅周辺や、栗山は南北に長い地形なので、中間地点の角田に建ててはどうか。富士の栗山町農産物検査場。旧栗山小学校グラウンドに建ててはどうかといった意見もある。現実的には現地建て

替えになりそうだが、移転による解体費の 6 億円を借入金の対象になるように要望をしているが、なかなか難しい。

町民：旧王子の森を活用できないかと考えていた。

町長：旧王子の森の活用について働きかけをしていたが、なかなかできていない。王子側の考え方もあるということ。このままだと、旧王子の森の建物も木も老朽化が進んでしまう。もったいないと思うが、なかなか難しい。

町長：診療科のことで、他の懇談会場で多く出ている話として、整形外科の午後診療を希望したいといったことや、眼科、皮膚科、泌尿器科は週 1 回の診療になり、その日を逃すと 2 週間診てもらえないことになるので、最低でも週 2 日診てもらえないかなど。また、12 の診療科目を維持せずに経営面を考えて、診療科目を減らしてはどうかといった意見もあった。

町民：利用者側の勝手な言い分としては、終日診察を行わないと利用する側は不便。終日受診できるというのが本来の総合病院の姿だと思う。

町長：患者の獲得が必要という意見もある。人口減少と患者減を考えると空きベッドが出ないような考え方もある。長沼の民間病院は、送迎バスが出て、多くの栗山の町民を乗せて通院している。そういうことも今後の運営として考えていかなければならない。

町民：町民で栗山赤十字病院を利用しない人は、なぜ栗山赤十字病院を利用していないのかを考えていかないと難しい。町民に栗山赤十字病院を利用してもらえるような取り組みを考えていくことが必要。栗山赤十字病院が繁盛してくれば、いい医者も来てもらえると思う。それから、外科は手術ができないと聞いたがどうなのか。盲腸の手術もできないということを聞いた。

町長：人間ドックなども、利益が多いので、そういったものもできるようにしていく。

町民：医師は受診するときに患者と目も合わせてもらえないような人もいて、そういう医師には患者も不信感を持ち、そういう病院には行きたくなくなる。そういうことのないような医師の確保を考えるべき。

町長：栗山赤十字病院は、出張医が多いが、北海道大学との関係もあり、医師確保の心配は少ない。

町民：個人病院は、親身になって地元のことを考えてくれている。大きい病院になると、ホームドクターになりえないところがある。出張医と常勤医は技術的な違いは少ないと思うが、地元のことを考えてもらえる医師が来てくれることが大事。

町長：薬局のことで、道路を横断していかなければならないので、不便ということも聞く。薬局に関しては、法律上の問題もある。担当から説明する。

日赤改築室長：平成 6 年に、医薬分業の制度ができ、薬の処方（医者）と調剤（薬剤師）を分けた。院内から薬局がなくなった。院内の薬局は多くの薬剤をストックできない。人件費の問題。院内報酬など、経営が難しく、どうしても建物の外になった。また、道路をまたがないと薬局を建ててはならないということもあり、同じ敷地に薬局は建てられないことになっている。規制緩和してきているが、歩道に出ないと薬局が建てられない。その後、平成 28 年に敷地内へ薬局を建設してもよくなったが、経営は別にするようにということになった。

町長：今 3 件の薬局があるので、3 件とも敷地に入れるわけにはいかない。薬局と栗山赤十字病院とも話し合っていきたい。

町民：薬局に行くのに道路の横断で苦労しているという話はよく聞く。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：最近、ごみの話題が出てこない。ごみ処理の広域化について聞きたい。

町長：2市4町で会議を進めていて順調に進んでいる。令和6年4月稼働を目指している。栗山のごみの出し方や分類などをいろいろ検討していく。資源ごみは今まで通り分けるが、もう少しわかりやすくなる。

町民：ごみの分別は、捨てる人の手間もある。そういう情報は早く町民に知らせてほしい。町広報などに資源ごみがどう活用されているかを掲載するなど、町民にごみ分別への理解を示してもらえるようなことをしていくことも必要だと思う。

町長：11月9日から、栗山赤十字病院でコロナの検査ができるようになる。担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に発熱外来ができた。病院の横にプレハブが建てられている。発熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ電話をしていただいて予約をし、受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。PCR検査は検体を札幌に送って検査する。抗原検査は栗山赤十字病院で検査ができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。もしベッドが満床であれば、札幌市内のホテルでの療養となることもある。個人的に検査を受ける場合は、65歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。電話での予約になる。

町長：65歳以上の人は、1回だけ無料で検査を受けられる。

町民：PCR検査と、抗原性病検査の精度に違いはあるのか。

日赤：検査の精度に大きな差はない。

町長：抗原検査は、過去にコロナに感染したかどうかもわかる。

町長：栗山赤十字病院も地域貢献に尽力していて、本来であれば感染症指定病院しかできないところだが、地域医療に尽力したいと厚生労働省に働きかけて、今回検査ができる施設を作った。

町民：そういうことをもっとPRして、町民の栗山赤十字病院ファンを増やしてほしい。

19：58 終了